

住友化学 i-農力だより

第27号 3月10日

発行 住友化学・住化武田農薬

お客様相談室 0570-058-669

発行責任者 古津 昇

i-農力サイト <http://www.i-nouryoku.com/index.html>

目次

農家さん訪問記	p.1
大家さんに行く「大田市場見聞録」	p.5
住化アグログループ紹介 レインボー薬品(株)	p.7
新連載:りんごの病害虫チョツといい話(1)	p.8
新農薬紹介 プロパック箱粒剤	p.9
農薬あれこれ?なぜなに?コーナー	p.10
今月のお奨め農薬ヨシキタ・ドニチS1キ口粒剤	p.11
今月の相談内容から	p.12
病害虫発生情報	p.12
農薬登録情報	p.14
最近の「お・美味しい!」	p.15
コラム・そば談義	p.16
編集後記	p.16



「オオルリ(ヒタキ科)とシラカンバ(カバノキ科)」技術顧問 富樫作

農家さん訪問記

子供が「美味しい」と丸かじりしてくれるきゅうり作りが夢!

群馬県の県境を地図で切り取ると、鶴が東に向かって羽ばたいているように見えます。そのくちばしの先端に位置するところが、今回訪問した板倉町です。ここは、東京から60キロ圏内にあり、東京に繋がる東北自動車道・館林ICに近く、収穫した新鮮なきゅうりを素早く全国の市場に運ぶことができます。

今回紹介する農家さんは、その板倉町在住の横塚勉さんで、きゅうりの栽培はナント40年近い大ベテランです。ご家族の構成は、奥様と二人の息子さんです。きゅうりの栽培は奥様と二人でされています。

群馬県板倉町 横塚 勉さん(56歳)

板倉のきゅうりは気候と技術と地の利が凝縮!

忙しい作業の合間にお邪魔して、横塚さんのきゅうりハウスでお話を伺いました。

この地域でのきゅうり栽培は、「促成」と「抑制」の作型を組み合わせています。きゅうりは定植して約1ヶ月で収穫が始まります。「促成」では12月に定植し、翌年の1月~6月まで収穫します。「抑制」では8月に定植し、9月~11月まで収穫します。きゅうりは夏の



作物ですが、板倉には寡照・低温の12月に定植する「促成」作型を可能にする秘密があります。

ここ関東平野北東部では、「上州の空っ風」と言われる季節風が雲を吹き飛ばし、真っ青な晴天をもたらします。「十分な日照量」で、真冬でもハウスの温度が上がり、「加温機(重油を燃料とするボイラー)」で最低温度を確保します。きゅうりを厳寒期に栽培する一番のポイントは「地温20」を確保することです。根が動かなければ、作物は生長しません。根が動く環境を整えるために有機物の発酵熱を利用したり、マルチを二重にしたり、灌水にお湯を使ったり、みなさんが研究や工夫を重ねています。

また、まだ少ない日照時間をどれだけ有効に使うかも重要です。きゅうりは、作物の生長が早く、主枝 側枝 孫枝 ひ孫枝と枝を伸ばす作物です。光合成の為に葉が必要ですが、混みすぎは逆効果になります。古い葉は取り除き、常に世代交代を図らなければなりません。今年は暖冬のため、温度や天候が周期的に変わりやすく、その日その日の天候やきゅうりの生育状況に応じた管理が難しいそうです。ハウス内の湿度が上がると、べと病、菌核病、灰色かび病

などの多湿病害が発生します。逆に乾燥しすぎるとうどんこ病が発生します。気温が上がってくるとアブラムシやダニなどの害虫が動き出します。きゅうりにストレスがかからないように、換気、灌水、追肥、加湿器の温度設定など、臨機応変な細かい管理が必要だそうです。また、病害虫がでないような管理と、早期発見・早期防除が重要だそうです。

収穫で難しいのは、きゅうりの大きさを揃えることです。花が咲いて15日前後で収穫出来ますが、その間の天候や管理で「長さ」や「太さ」に差が出てくるそうです。正常な生育をしていると、きゅうりは真っ直ぐになるそうです。何かしらのストレスが加わるときゅうりは曲って瓢箪の様な形になってしまいます。そのようなときには、きゅうりを摘果し、負担を減らす事も必要だそうです。

灌水の方法はとても大切で、個々の秘密とのことですが、少しだけ教えてくださいました。灌水は午前中に行います。また、夕方にはハウスの中がカラッとしていること、土壤水分を乾き気味にしておくことが理想だそうです。



加温機からの送風口



収穫を待つきゅうり



きゅうりの根元

きゅうりの声が聞こえる横塚さん！

さて、ここで経営状況について伺いました。横塚さん宅ではきゅうりを約2反(×年2作)、水稻を約8反栽培されています。板倉町では「きゅうりと水稻」との複合経営が多いそうです。年間の収量は25~30トン位/反。キロ単価は平均すると200~250円位とのこと。経費は、重油代、被覆資材代、肥料代、種苗代、農薬代、包装資材(段ボール箱など)、労賃などで、売上の半分位との事でした。板倉町のきゅうり農家は約400戸あり、ほとんどの方が農協に出荷されています。隣の館林市でも約300戸あり、この地域の主幹作物です。農協は別々ですが、お互いの生産者同志の交流があり、お互いに切磋琢磨し、様々な情報交換をする事で栽培技術を高めて来ました。現在では、両JAが共同販売しているそうです。異なるJA間でこうした技術交流や出荷の共同化を行っているのは珍しいケースです。



JAの担当者の印象では、横塚さんのようにいつもハウスにいる人は、「きゅうりの声が聞こえる」のだそうです。きゅうりは生育が早く、管理の差が出やすい作物です。状況に応じた細かい管理が出来るか出来ないかで、大きな差になるそうです。因みに横塚さんは栽培歴が40年近いと前述しましたが、きゅうりの顔を見て対話(何が欲しいのか、どうして欲しいのか)が出来るようになったのは15年位前からだそうです。それを聞くと、植物を上手に育てるためには、長い年月をかけて経験や勘を養う必要があるのだと改めて感じました。また、毎年気象条件が違うとのことで、いまでも勉強と笑って答えてくれました。

きゅうり作りは地力の維持が大切！

我々が驚いたのは同じ圃場で30年以上きゅうりを栽培していても収量が落ちないということです。そのために横塚さんが一番気を使っていることは、「地力の維持」だそうです。き



生でかじっても美味しい！

ゅうりを収穫するという事は、土の栄養分を圃場から持ち出していることになるので、その分だけ圃場に戻さなければ、地力はどんどん減ってしまいます。作毎に、堆肥を投入し、土壌診断で健康状態を把握し、適切な施肥と適切な追肥できゅうりの根が動く環境を整えておくことが一番重要な事だと話してくれました。本当にさすがという他ありません。

インタビューの途中で採れたてのきゅうりを丸かじりさせて頂きました。真ん中から折ると、ポキッと音がして瑞々しく、ほんのり甘い香りがします。スーパーで買ったきゅうりとは全く違います。これを浅漬にして酒の肴にするとさぞ美味しいだろうなと、ふと思いました。

横塚さんの将来の夢についてお聞きしました。農家には定年がないので、元気な内はきゅうりを栽培していきたいそうです。今より、もっと「安全・安心」なきゅうりを全国に届けたい。小さな子供が丸かじりして「美味しい」と感動してくれるきゅうりを目指したい。そ

のためにも、自分だけではなく地域の農家と農協が一心同体となって、力を合わせていきたいと話してくれました。終始にこやかな横塚さんは、地域のリーダー的な存在です。なにが問題があり迷ったときには、横塚さんを頼ってハウスを覗きに来る人が絶えないそうです。板倉町にはこのような方が各地域に何人もいるそうです。産地の底力を感じることが出来ました。

雷さんと鯰の板倉町！



取材終了後、板倉町の雷電神社にお参りました。

そこにあった「鯰さま」の銅像を撫でると、雷を避け自信が溢れてくるご利益があるそうです。屋根には雷マークと共に、葵のご紋がありました。江戸時代の五代将軍が使用を許可したとのこと。神社の由緒が偲ばれます。ちなみに、当日のお昼ご飯は池の辺りのレストランで、癖のない鯰の美味しいてんぷら定食を頂きました。(鈴木)



最後になりましたが、今回の農家・横塚さんをご紹介頂いた、JA群馬板倉営農支援室の田村さんに、厚く御礼申し上げます。



板倉農協集荷場



JA 板倉営農支援室の田村さん(左)

[目次へ戻る](#)

*** 大家さんと行く「大田市場見聞録」****東京神田青果市場株訪問インタビュー**

副社長 酒井勝広さん、管理部財務部長 山口智久さん

卸間の競争で飛躍的成長を遂げる！

東京都は、大田市場含めて9つの中央市場がありますが、それらの市場を合せた青果物の約半分(野菜40%・果物50%)が、この大田市場で取引されています。

因みに、大田市場の青果物の取扱量は、1日約3,400トンです。これは全国の中央市場の約1割です。そして、大田市場に加盟している会社及び団体は、卸会社3社・仲卸組合4団体(177社)・小売商組合14団体(1,509人)です。また、大田市場など市場を経由しないで、大型量販店や専門店などに運ばれる青果物もあります。

以前、秋葉原にあった神田市場が廃止されたことから、平成元年にこの大田市場に移ってきました。秋葉原当時の年商は87億ほどでしたが、こちらに来て2倍以上の売り上げになりました。この大田市場には、わが社よりも大きな卸が2社ありますが、そこに何とか追いつきたいという卸間の競争原理が働き、売りを大きく伸ばすことが出来たと思います。取引先は、系統団体および商協連や任意団体等の出荷組合などです。因みに、大手卸2社は系統(農協関係)と取引しています。



山口部長さん

情報処理センターの立ち上げで合理化進む

さて、前回の記事では手数料率が自由化になることを説明しましたが、それを受けて2006年8月から、卸会社3社・中卸組合4団体・小売商組合14団体の事業処理を一部合理化するため、情報処理センターを立ち上げました。



これらの団体と卸会社は、取引方法・決済方法・支払い保証などの条件を盛り込んだ取引協約を毎年結んでいます。特に決済では、所属組合員の買受代金を期日に組合がまとめて支払う(代払制度)ことになっています。また、支払保証は組合員の買受代金を保証する制度です。今までは、取引ごとに小切手を切って手渡していましたが、最近では振込みだけと

なり随分と簡素化されました。

以上のことを具体的に説明すると、取引が成立すれば、各組合が情報処理センターに振り込み、それをセンターとは別の卸会社、買受団体で設置した事務機関が振り分けて3卸会社に入金してくれます。また、卸から仲卸への請求書も、情報処理センターから各組合に届けてくれるようになりました。場内にはLAN(光ケーブル)が設置されて、請求データや支払いデータが各組合の端末でスピーディに把握出来るようになりました。その情報処理セン

ターを運営するための人件費や経費は、加盟会社で支払います。本センターが各社の業務を肩代わりするようになって、随分各社の事務処理が簡素化され合理化も進んだと思います。

外食産業も条件が同じならば国産品を仕入れたい！

話は変わりますが、農薬のポジティブリスト制度（H18年5月29日）施行後、大型量販店ではトレーサビリティ対応に係わる経費などがかなり発生したと思います。

しかし、中食（弁当など）や外食店は、外国の安い農産物を今でも大量に仕入れています。それらの店には、ポジティブリスト施行後も大きな影響は無いような気がします。また、外国からの輸入農産物を安全面で厳しく取り締まったとしても、2年ほどは影響を受けるとは思いますが、その後は元の輸入量に戻るでしょう。それは、日本の商社がポジティブリスト制度に適合するよう現地で技術指導をすることで輸入量が回復すると考えられるからです。



外食産業の担当者は、毎日出す食材の価格が大きく変動することを極端に嫌います。それは、原料費が変動すると収支決算の予測がし難くなるからです。そのために、飲食店経営には安い価格で安定的に仕入れることが出来る輸入農産物がよいのでしょう。今後も規制に適合して安価なものが大量に輸入されますが、本音は「条件が同じであれば国産品を使いたい」と思っているでしょう。

あの人がつくる安心で美味しいものを食べたい！

また、こんな現場の声もあります。減農薬・減化学肥料で生産する農家さんが増えてきていますが、使用した農薬や肥料を特に記載しない生産者がいます。

消費者と生産者がお互い信頼関係で結ばれているから必要ないというのがその理由です。消費者も「あの人がつくる作物なら美味しく安心して食べることが出来る」といって農家さんを名指しして買う人もいます。市場内でも品質・形状など優れたものは生産者を指名して購入します。また、生産者は「俺のつくる生産物を信頼して欲しい」と訴えます。そして、お客さんを決して裏切らないと自負しています。そういう農家さんが最近多くみられるようになってきたように思います。（古津）

今回は、最後に「青果市場の今後について」をお送りします。

* 大家さん...日本エコアグロ(株)でトマトなどのバイヤーの仕事に従事されています。

[目次へ戻る](#)

住化アグログループ紹介

レインボー薬品(株)

除草剤「ネコソギシリーズ」

レインボー薬品の家庭園芸用薬品で最大のブランドは、「ネコソギシリーズ」です。

除草剤といえば、一般家庭にはまだ馴染みの薄かった昭和60年に、空地や駐車場・墓地など手入れの行き届かない場所の管理に最適な商品として初代「ネコソギ粒剤」は誕生しました。その後幾度かのリニューアルを経て、現在は「ネコソギエースA粒剤」が基幹商品のひとつとなっています。

ネコソギエースA粒剤は日本グリーンアンドガーデンが開発した、イソウロン1%、DBN3%、DCMU6%を有効成分とする、高性能の非選択性土壌処理型除草剤です。一般的な一年生雑草、多年生雑草はもとより、一般の方が最も困っている“スギナ”に非常に高い効果を発揮します。

レインボー薬品は、今後も各社様のご協力を賜りながら、家庭園芸用除草剤におけるトップメーカーとして、皆様の生活のお役に立てる商品を発売して参ります。



ネコソギ 850g 包装



ネコソギ 380g 包装



ネコソギ 3kg 包装



ネコソギ 2kg 包装

[目次へ戻る](#)

【新連載】

りんごの病害虫チョットいい話 (1)



今月より弊社仙台（営）水野技術顧問による新連載を開始いたします。

明治以降武士の職業として

私たち日本人はいつ頃からりんごを食べていたと思いますか？正確には分かりませんが、筆者が住んでいる町の、江戸時代の祭りの奉納品の綴り帳に「りんご」が記載されていることから、かなり以前から食べられていたことが伺われます。

しかし、このりんごは私たちが日頃食しているりんごとは異なり、「和りんご」または「地りんご」と言われている日本在来のもので、現在我々が日頃食しているものと比べると恐らくずっと小さく、酸味が強かったものと思われます。それが証拠に明治新政府が明治4年アメリカから西洋りんご（現在のりんご）を導入し、日本の各地に苗を配布して数年後結実したりんごを食した当時の人々は、その美味しさと大きさに驚いたそうです。

りんごは当初日本各地で試作されましたが、比較的寒冷な地域である北海道、東北及び長野の各県が栽培に適していることが分かり、明治20年代以降これらの地域を主体に急速に栽培面積が増えていきました。特に青森県は、明治以降仕事がなくなった武士の職業としてりんご栽培を勧めたこともあり、今でも日本一の産地となっております。

りんごのルーツは中央アジア「カザフスタン」

明治30年代になると、もともと日本で栽培されていなかったこともあって病害虫が多発するようになり、りんご農家の方々は大変苦労されたことが記録に残っております。この話は後述することにして、もう少しりんごのルーツについて話してみたいと思います。

日本にはアメリカから入ったと述べましたが、もともとの故郷、起源はどこでしょうか？長い間研究者たちの論争があったようですが、現在では中央アジアのカザフスタン山中に自生する野生のりんごらしいと言うところに落ち着いたようです。この地へ行くと今でもりんごが森を覆いつくすほど茂っており、木の高さは15mにもなって、中には現在の栽培品種と同じくらいの大きくて赤い実をつけているものもあるそうです。

かつてのシルクロードはこのような森がいくつかあり、そこを通り抜ける旅人は美味しそうなりんごを摘みとり、西へ向う旅の食料としたことが想像されます。途中食べ残しの種から芽を吹いたもの、ヨーロッパの近縁植物と交雑したものが生まれるなどして、アジアからヨーロッパへりんごが渡ったものと思われます。では、美味しいりんごの品種はどのようにして生まれたのでしょうか？この続きは次号でお話します。



(技術顧問 水野)

[目次へ戻る](#)

新農薬紹介

いもち病・紋枯病・イネミズ・ウンカ類・ニカメイチュウ防除に！

プロパック箱粒剤

プロパック箱粒剤は、いもち病防除剤ジクロシメット（商品名：デラウス）、チアジニル（同：ブイゲット）と紋枯病防除フラメトピル（同：リンバー）に、殺虫スペクトルが広く長期残効性の殺虫剤クロチアニジン（同：ダントツ）の4成分を混合した、長期持続型で総合病害虫防除が可能な水稲用箱処理剤です。

いもち病に対しては、異なる作用機作の2成分デラウスとブイゲットが“相乗効果”を発揮します。また、昨今発生エリアが拡大している薬剤耐性いもち病菌に対しても有効です。

紋枯病対象に配合したリンバーは、菌核の発芽や形成阻害、進入菌糸塊の形成阻害等の作用を有し、特に菌糸に対して強力な生育・活性阻害を示します。そのため、菌糸伸長を止めるだけでなく、その病原力をも失わせます。そして実用場面では、イネ体への吸収移行性と残効性に極めて優れていることから、通常発生であれば育苗箱施用で、稲作期間全体を通じた紋枯病防除を可能にしています。

殺虫剤ダントツは、殺虫スペクトルの広いネオニコチノイド系化合物です。ダントツ箱粒剤は、イネミズゾウムシ等の甲虫目、ウンカ類やツマグロヨコバイ等の半翅目、ニカメイチュウ等の鱗翅目等、幅広い害虫に低濃度で有効な薬剤として既に高い評価を得ています。

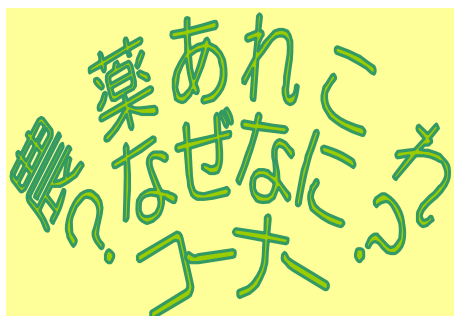
本剤は、平成18年4月に既に登録を取得しており、今年度の上市向け準備を整えてまいりました。

最後に「プロパック」の名前の由来ですが、いもち病・紋枯病および害虫をまとめて（パックして）防除できる本剤を、農業のプロフェッショナルにご使用していただきたい、という願いを込めて命名しました。

プロパック箱粒剤をどうぞよろしくお申し込み申し上げます。 （打和）



[目次へ戻る](#)



よく見かける 「展着剤」っていったい 何なの？

ご質問

展着剤。「てんちゃくざい」と読むこの液体。

これって、何なのでしょう？よくホームセンターなどに行くと、農薬・園芸コーナーに置いてあります。お薬のような、そうじゃないような・・・。

なんだかこれだけ他のものに比べて価格も安いですし、いつも気になってはいるのですが、よくわかりません。これ単体で作物にかけるだけでは殺虫などの効果はないのですか？それに、使い方に「添加」とありますが、何に添加するのでしょうか？商品ラベルだけでは、よくわからないので教えてください。

お答え

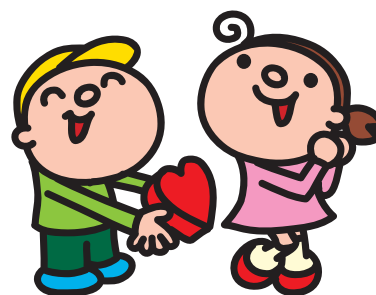
ご質問の「展着剤」だけでは、虫や病気には効きません。

虫や病気の防除には、それぞれに効果のある殺虫剤や殺菌剤を使う必要があります。これらを水で薄めて噴霧器などで散布する場合、展着剤を入れないと、霧状で吹き付けても植物の葉の上では水滴となってしまう。そうすると、植物の葉などは、必ずしも地面と水平ではありませんから、大部分が簡単に流れ落ちてしまうことになり、せっかく散布した薬も植物に付くことなく流れ落ちてしまいます。一方、展着剤を散布液に加えると、大きな水滴にはならず、細かな霧状のまま葉に付着し、より多くの薬成分が植物体に付くので、薬の効果が上がるようになります。

このように展着剤とは、農薬の散布液がより植物体に付きやすくするための補助的な役割のものなのです。例えば、油で汚れた皿に水をかけても、水滴となって流れ落ちるだけですが、石鹼水をかけると表面に広がり、油汚れを落としますよね。この石鹼のような役割を展着剤が果たしていると思ってください。

実際、農薬そのものにもある程度展着剤成分が含まれていますが、よりよく植物に付着させ、その効果を安定させるために、展着剤を散布液に加えて(添加して)いただくことをお勧めします。特に水和剤など粉状の物を水に溶かす場合には必ず加えてください。

(佐伯、稲葉)



[目次へ戻る](#)

今月のお奨め農薬

「ヨシキタ」・「ドニチS」1キロ粒剤

今月は、田植同時散布ができる二つの省力水田除草剤をご紹介します。

水田除草剤は、一発処理剤の開発により、従来の初期剤と中期剤との体系処理が必要だった頃と比較して大幅に使いやすくなりました。しかし、SU 抵抗性雑草が増えてきていることや、圃場の大区画化により圃場内や畦畔からの作業が困難になるなどの新しい問題が発生しています。そこで、田植同時散布ができる剤としてSU 抵抗性雑草にも効果の高い「ヨシキタ1キロ粒剤」「ドニチS1キロ粒剤」を発売いたしました。

「ヨシキタ1キロ粒剤」はSU 抵抗性雑草のホタルイ・コナギ・アゼナにも良く効き 40～50 日の長期残効性を示す除草剤です。移植直後～ノビエの1.5 葉期まで使用が出来ます。

「ドニチS1キロ粒剤」はSU 抵抗性雑草にも効果が高いフ



ェントラザミド・プロモブチドを含んだ混合剤で、移植直後～ノビエの2.5 葉期まで使用できる初・中期一発剤です。

両剤とも、田植同時処理でも薬害がほとんど無く、高い除草効果を発揮するのが特長です。水田が大区画になると、圃場に入っただけの均一散布が困難になったり、作業状況や天候によって雑草に対する散布適期を逸してしまうことがあります。このような場合には特に、田植同時処理をお勧めします。植付速度と連動して散布量が調整できる散布機を田植機に取付け、田植しながら散布することで、散布ムラを抑えた高精度の散布が可能です。

市販の田植同時散布機には、「こまきちゃん」(クボタ・井関)、「GS1」(共立)、「JS1」(ヤンマー)、「イノベーター」(丸山製作所)などがあります。いずれもタンクに必要量を入れて田植しながら散布すればよいのですが、水田での田植機のスリップ率や薬剤の状態で散布量が変わってくるため、調量ダイヤルで散布量を設定する必要があります。そのため、試し散布は、以下の手順で行ってください。薬剤を1kg だけタンクに入れます。予め10a の面積を見積もって目印を付けます。8a 位で薬剤の残量を確認して、10a 地点まで作業をします。その結果から適量を判断してダイヤルを微調整してください。

田植同時散布は省力で、雑草に対する散布適期を逸することなく、作業者に薬剤がかからず、風の影響もほとんど受けることなく作業が出来ますので、大規模農業にもマッチした技術です。

「ヨシキタフロアブル」は滴下マン(クボタ・井関・三菱)での田植同時が出来ます。是非今年も田植同時にチャレンジしてください。(富樫)



[目次へ戻る](#)

今月の相談内容から

馬鈴薯の種芋消毒にノットバン水和剤

質問 ばれいしょの種いも消毒(そうか病・黒あざ病)にノットバン水和剤を使用したいのですが、上手な使い方を教えてください。

回答 ノットバン水和剤は黒あざ病に効果があるトルクロホスメチル(商品名:リゾレックス)と、そうか病に登録のあるフルスルファミド(商品名:ネビジン)の混合剤です。本剤はばれいしょの種いも消毒の専用剤です。特長は、2つの成分が相乗効果を発揮し、「そうか病」と「黒あざ病」に対して高い防除効果を発揮することです。

使い方は、本剤を50倍に希釈し種いもを瞬時浸漬(10秒浸漬)します。ノットバン水和剤500gで、25リッターの薬液ができます。一度に処理できる種いもの重量は、薬液と同等の25kgです。薬液は5~6回処理が出来ますが、種いもについている土で、薬液がドロドロになり浸漬に適さなくなります。こうなったら、薬液の継ぎ足しをせずに新しく作り直してください。種いもは切断してから処理をすると薬害を生じますので、切断せずに処理をし、処理後は速やかに風通しの良い所で乾かしてください。切断は薬液が乾燥してから、植付け時に行ってください。切り口にワラ灰の処理は不要です。また、種いもが少し発芽していても浸漬による薬害の恐れはほとんどありません。

最後に、廃液は、活性白土に吸着させてから産業廃棄物として処理してください。(富樫)

[目次へ戻る](#)

病害虫発生情報

[2~3月初めに各県から出された病害虫注意報・特殊報から、
主要なものをお知らせします。](#)

野菜類

いちご ハダニ類/注意報:長崎県

先々月・先月に引き続き、注意報が発令されています。

早期発見・早期防除を心がけてください。寄生葉は圃場外へ持ち出し処分してください。薬剤は下葉かきを行ってから、ダニが生息する葉裏にかかるように散布してください。でんぷんが成分の粘着くん液剤での防除がお勧めです。粘着くん液剤はかかったダニにしか効きません(卵には効果がありません)ので、発生密度が高い時は、他のダニ剤とのローテーションでご使用ください。

トマト・ミニトマト タバココナジラミ バイオタイプQ/特殊報:石川県
タバココナジラミ バイオタイプQは、トマト黄化葉巻ウイルスを媒介し、トマト黄化葉巻病を発生させます。バイオタイプQは、多くのコナジラミ剤に抵抗性を示すタイプです。ベストガード水溶剤・粒剤は、このタイプのタバココナジラミにも



効果を発揮します。

トマト トマトすすかび病 / 特殊報：熊本県

病徴は葉かび病に似ており肉眼での判別は不可能ですが、顕微鏡下では容易に判別が付きます。過湿にならないように注意し、被害植物の残渣上で生存して次の伝染源となるので、被害葉などは圃場外へ持ち出してください。

トマト トマト退緑萎縮病 / 特殊報：広島県

国内では未発生のウイロイドによる病害です。ハサミ等の器具による栽培管理作業により容易に感染します。摘芽、誘引などの作業等においては一定の間隔で手洗いを行い、ハサミは頻繁に消毒し、収穫・管理作業による汁液伝染を防いでください。

たまねぎ 白色疫病 / 注意報：和歌山・愛媛県

排水不良の圃場で発生が多いため、降雨後の排水に努めてください。罹病や枯死した葉は、感染源となるので、適切に処分してください。

本病は水媒伝染のため、雨滴やたまり水を介して周辺株に感染するので、降雨前後の防除が重要です。

ほうれんそう ベと病 / 注意報：奈良県

これまでの抵抗性品種を侵す新しいレースが発生したもようです。発病株は伝染源となるので、見つけたら除去してください。平均気温 8 ~ 18 で、曇雨天が続いたり、ハウスを閉め切るなど、多湿条件が続くと発生が多くなりますので、栽培管理に注意してください。

茶 カンザワハダニ / 注意報：京都府、福岡・鹿児島県

越冬成虫の産卵や孵化幼虫の発生が平年より早いので、従来の防除時期より早めた防除が必要となります。薬剤は寄生の多い裾部・葉裏に十分かかるように、ていねいに散布してください。粘着くん液剤は、摘採前日まで使用できます。

茶 ミカントゲコナジラミ / 特殊報：三重県

本来、かんきつ類の害虫ですが、茶での寄生はこれまで、京都、滋賀、奈良で報告されています。茶での被害は、葉の吸汁加害と、排泄物によるすす病が併発します。

茶園の風通しを良くし、寄生葉を除去することが、耕種的防除となります。



ナスのすすかび病（参考）



アスターのべと病（参考）

（稲葉）

[目次へ戻る](#)

農薬登録情報

< 2月7日および2月21日の新規登録・適用拡大内容です >

新規登録

殺虫殺菌剤の新剤です

ブラシキラップ粉剤 DL (農林水産省登録：第21889号) 2月7日付

登録

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	総使用回数	使用方法
稲	いもち病 ごま葉枯病 穂枯れ (ごま葉枯病菌) カメムシ類	3~4kg /10a	収穫 21日前 まで	本剤 : 2回以内 イフプロール : 2回以内 フェリムゾン : 2回以内 アサイト : 6回以内 (穂ばらみ期以降は 4回以内)	散布

適用拡大

今回は、マイナー作物登録が目立ちました 2月7日・21日

種類	薬剤名	変更点	作物	病害虫名	使用量ほか	
殺 虫 剤	アグロス ダイアジノン 水和剤	適用害虫追加	りんご	リンゴワタムシ	1000倍	収穫30日前まで 4回以内 散布
			すもも	アブラムシ類 ハマキムシ類 アメリカシロヒトリ	1000~ 1500倍	収穫21日前まで 4回以内 散布
			小粒核果類 (すももを 除く)	シンクイムシ類	1000倍	収穫21日前まで 2回以内 散布
			作物名変更	うめ 小粒核果類(すももを除く) 一般樹木 樹木類		
	アグロスリン 乳剤	作物追加	エンサイ	ハスモンヨトウ	2000倍	収穫3日前まで 2回以内 散布
	ST DDVP 乳剤	作物追加	グアバ(果実)	ハマキガ類	1000倍	収穫14日前まで 2回以内 散布
			グアバ(葉)			収穫28日前まで 2回以内 散布
マンゴー			ゴシロント® 幼*	2000倍	収穫14日前まで 3回以内 散布	
		薬用にしん	ヨトウムシ	2000倍	収穫14日前まで 9回以内 散布	

種類	薬剤名	変更点	作物	病害虫名	使用量ほか	
殺菌剤	スターナ水和剤	作物追加	さんとうさい	軟腐病	2000倍	収穫14日前まで 2回以内 散布
	スミレックス水和剤	作物追加	食用へちま	菌核病	2000倍	収穫前日まで 2回以内 散布
			とうがん	菌核病	2000倍	収穫7日前まで 2回以内 散布
			マンゴー	軸腐病	1000倍	収穫21日前まで 3回以内 散布
	ポルドー(水和剤)	作物追加	とうがん	果実汚斑細菌病	800倍	散布

(佐伯・稲葉)

[目次へ戻る](#)

最近の「お・・美味しい!」

桜・さくら・サクラ

弊社相談室紅一点!の佐伯がお送りします
最近の「お・・美味しい!」
女性の目・主婦の目・はたまた酒呑み??の目(笑)で、
毎月「これぞ!」というものを紹介します。
どうぞお楽しみに♪♪



左より、桜餅・桜きんつばと桜ゼリー・桜しらすむすびです。

「花よりだんご」第2弾は、菜の花につづいて「桜」です。

そろそろ「開花はいつ頃かいな?」「花見はどうする?」みたいな話題もチラホラと出てくるこの季節。もちろん、開花も楽しみですですが、私の場合この季節にしか出てこない「桜」関連のお菓子や食べ物に目がないので、誘惑が多くて困る季節でもあります。

今年もあれこれと手を出しては、お気に入りを見つけています。定番の桜餅はもちろん、桜きんつば、桜ゼリー、珍しいものでは桜風味ポップコーン。どれも、あの桜の葉独特な風味が絶妙で美味しいのなんのって。なかでも、「桜しらす」はしらすの塩気と桜の風味があいまって、絶品でした。この時期しか発売されないの買いだめしておかなくては・・・(ああ忙しい)

桜なら、何でも良いのかと言われそう(笑)ですが良いのです!ということで、「こんなあったよ」的な情報がありましたらどうぞ教えてください。まだまだ忙しい日(?)は続きそうです。

(佐伯)

[目次へ戻る](#)

コラム・そば談義

毎日、歩こうと心がけている。

理由はごく単純だ。足腰が少し弱ってきたことと、お腹の周りが弛んできたからだ。回りをよくみると同世代（中高年）は同じ考えと見えて、万歩計をベルトにつけている人が多いように思う。そこで、先日から私も万歩計をつけることにした。すると不思議なことに、毎日の歩数が気になりだし、今日は何歩だ、明日はこれだけ歩こうと、何かに取り付かれたように歩き回るようになった。最初は3日坊主と思っていたが、これが歩き出したら面白くどうにも止まらないのである。

そこで、ふと思ひ立ち、勤務先の茅場町界限（半径2キロ以内）には蕎麦屋が何軒くらいあるのだろうか、またそれらの店の味はどうかと歩いて調べることにした。すると、結構な店数があり、それらの暖簾を片っ端から潜るのであるが、大方の予想に反してがっかりするところが多い。理由は、そば粉の配合割合が明らかに少ないのである。このような店でそば粉の割合を尋ねるのは気が引けるし、野暮である。しかし、近頃は一口嚼るだけで大体分かるようになった。

ところで、意外だがこのような店は繁盛しているのである。それは蕎麦屋の看板を掲げているが「そば」では勝負をしていないのである。メニューを見ると何でも御座れで、カレー・カツ丼・麻婆豆腐などで蕎麦も同列である。要は、大衆食堂なのである。同様に大阪も暖簾にうどんと書いているが、おかずが陳列棚に各種あり、好みの品を食べる店があるのである。よって、このようなそば屋に苦言を呈する人がいるが、私はいいと思う。蕎麦屋のカレーを目当てにお昼に利用している人もいるのである。確かに美味しいそばが出てくることに越したことはないが、経営からすると小麦粉に比べてそば粉は高価であり、利益を考えると配合割合が少なくなるのは仕方がない。また、このような店があるからこそ美味しいそば屋が引き立つということもある。

そう云う私も、蕎麦へのこだわりを捨てカツ丼やカレーのセットでそばを食べたい気持ちは大いにある。しかし、それをすると「江戸ソバリエ」としてのプライドが崩れ、また折角万歩計を腰に付けている意味がなくなる。そこで、グーッと我慢して「盛りそば」を頼むのであるが、一口嚼ると「嗚呼、もっと美味しいそばが食べたい」と俄かに欲求が湧いてくることも確かである。

さて、お客様からみて我が相談室は、大衆食堂かそれとも専門店かどちらに感じられているのだろうか。お客様からすれば、そんなことはどちらでもよく、相談してみてもよかったと思えたかどうかであろう・・・

（古津）

編集後記

隅田川に架かる永代橋の両岸に、色の濃い早咲きの桜が3月上旬から3本ほど咲き始め、もう既に満開である。

ソメイヨシノもこのあと直ぐに続くことになるが、そうなる春は一気に全国を駆け抜ける。そして、畑仕事に水田の田起こしなど農作業が本格化的に始動する。しかし、暖冬の年は冷夏になる恐れがある。もし、そうなっても十分対応出来る様に土作りや栽培方法を工夫して準備して頂きたいと思う。



[目次へ戻る](#)